



日语基础

科技类

刘长义 顾明耀 徐祖琼 陈俊森 编著

中国中央广播电视大学出版社
日本国株式会社讲谈社



数据加载失败，请稍后重试！

日 语 基 础

科 技 类

刘长义 顾明耀 编著
徐祖琼 陈俊森

中国中央广播电视大学出版社
日本国株式会社讲谈社

日 语 基 础

科 技 类

刘长文 顾明耀 编著
徐祖琼 陈俊森

中国中央广播电视大学出版社 出版
日本国株式会社讲谈社
新华书店北京发行所发行
北京印刷一厂印刷

开本 787×1092 1/16 印张 21.625 插页 2 千字 497
1991年5月第1版 1991年5月第1次印刷

印数 1—10000

定价 9.50 元

ISBN 7-304-00595-5/H·30

出版说明

作为种子，人们欣赏它的发芽、开花，而很少关注它在泥土中的萌发；作为果实，人们赞叹它的硕大、丰华，也就不再谈论它所经受的风吹雨打。中日合作的这一日语课程项目也经历了长期、艰辛的准备过程：

一九八四年六月，中国原教育部副部长黄辛白先生访问日本广播协会（NHK），并与日本放送教育学会会长西本三十二先生商谈了两国在广播电视教育方面进行交流与合作的问题，为中央广播电视大学与NHK之间的合作，架设了友谊的桥梁。

一九八四年十月，以中国中央广播电视大学原副校长张群玉女士为首的中国广播电视教育考察团赴日考察。在访问过程中与日本国多方面探讨了两国在教育节目交流和合作的可能性，其中包括语言节目。

一九八五年八月，日本NHK国际公司理事小口昭二先生等访华，与中央广播电视大学初步确立了合作开设日语课的意向。

一九八六年十月，中国中央广播电视大学副校长牛振冬先生率团访日，就课程的性质、结构、媒体配合等方案，与日本NHK国际公司进行了认真、详细的磋商，形成了中日合作在中国利用先进的广播电视技术手段开设日语课程项目的蓝图草案。

一九八八年四月，日本NHK国际公司理事小口昭二先生率团访华，与中央广播电视大学协商确认了合作方案和计划。

一九八八年七月，中国中央广播电视大学副校长牛振冬先生率团访日，与日本NHK国际和日本国际文化交流中心签定了资助中央广播电视大学编写“日语基础课程教学大纲”及教材的协议，项目正式启动。

一九八八年十一月二十五日由中国国家教育委员会副主任滕藤先生与日本国驻华大使中岛敏次郎先生分别代表两国政府在利用一九八八年度日本文化无偿援助制作日语课部分电视节目协议上签字。

一九八八年十一月二十二日，“日语基础课程教学大纲”撰写完毕，并得到了中国国家教委的认可。

一九九〇年五月开始，《日语基础》教材陆续分册出版。

一九九一年二月十二日，由中国国家教委副主任牛开轩先生与日本国驻华大使桥本恕先生分别代表两国政府在利用一九九〇年度日本文化无偿援助制作日语课部分电视节目协议上签字。

一九九一年四月，日语基础课程全部200学时电视节目，在中日两国教授和技术人员的努力下，胜利完成。

今天作为成果奉献给读者的这套教材和将在屏幕上看到的节目，凝聚了中日双方多少专

家、学者、技术人员、管理人员的汗水和勤劳。我们由衷地感谢为这个项目做出巨大贡献的中日政府部门、民间团体和个人：

中国国家教育委员会，中国国家科学技术委员会，中国驻日使馆，中国国家教育委员会国际合作司、电教司、高教司、中国教育电视台。

北京大学、对外经贸大学、北京第二外国语学院、上海复旦大学、西安交通大学、北京外国语学院、华中理工大学、北京师范大学等。

日本国外务省、日本国际交流基金、日本国际协力事业团、日本国驻华使馆。

日本 NHK、日本 NHK 国际公司、日本讲谈社、日本凸版印刷株式会社。

前后参加此项工作的中日人员有上万名，恕不在此一一列出，但他们默默无闻的工作和汗水将会被中日人民永远铭记。

我们奉献的不仅是一门普通的语言课程，我们是在建造一座桥梁，一座中日两国人民加强经济文化交往、加深理解和交流的桥梁，为的是不忘历史和中日人民世代代的友好、正如日本原首相竹下登先生访华时在谈及此项目时所说的：她是中日两国文化交流的新起点！

中国中央广播电视大学

一九九一年四月

前 言

本书是中央广播电视大学日语基础课程第二学年的教材，供学习完日语基础课程第一学年的电大学员，以及其它具有初步日语基础的学员学习时使用。

语言是交际工具。学习外语，最终是为了运用外语，用它来读、来听、来接受信息，用它来说、来写、来表达思想。本书是侧重于培养学员日语阅读能力，尤其是培养阅读日语科技书刊能力的教材。

现代社会，科学技术可谓日新月异，边缘学科有如雨后春笋。这种情况对外语教学提出的要求是，基础须打好，共核要突出。所谓基础无非是语言知识、语言技能的基本功；所谓共核指的是各门科学、各项技术的共通物。抓住这两条，所学外语就能切合实际需要；离开这两条，学得再多也难免学用脱节。因之，设计、编写本教材时，我们主观上努力去突出基础、强调共核。例如，本书所选的文章，注重科技文章的共性而不偏于某一专业；本书所用的单词，多为基本词汇、基础词汇，以照顾各行各业通用；本书所含的语法、功能意念等项目，既适当安排巩固基础的训练，更着意突出阅读日语科技书刊时必不可少的内容。

本教材由十五课构成，每课包括八个部分。

课文——课文是本教材的中心，因之也是本课教学的重点。我们选取文章的标准是：思想健康，内容生动，语言规范且自然，表记准确并实用，注意课文与该课语言教学内容的联系，但不得生硬、牵强。十五篇课文共约 16,900 字。

画面解说——对该课电视教学的内容作出最低限度的必要解说，其核心部分是电视教学时所出的文字画面，这些语句基本上或者部分地反映出了各课语言教学的重点。这一部分既是课文内容概要，又兼语言重点提示。

单词——前面未学过的单词，均列入单词表。在词目表记、词性标注、词义注释等方面，力求简明实用。全书共出现单词 850 个，平均每课约 56 个。本书在多数课中安排有“构词知识”项，如能掌握并积极运用这些构词知识，则学员所掌握的词汇量，至少是领会式掌握词汇量（即阅读时遇到的词，可领会其词义）必将大大超过单词表所列词汇量。

注释——注释的内容主要有惯用型、固定词组、一时较难理解的语言现象等。注释力求准确、科学，详略得当，既能解决当前学习中的问题，又能满足将来运用上的需要。

语法——全书语法主要有三个内容：一是对已学基础语法的归纳整理，从向阅读过渡的角度撰写，争取有实用价值而避免重复感觉；二是介绍时、体、态等语法范畴，从对一些重点词法系统、深化的角度撰写，旨在帮助学员建立起条理清楚、层次分明的概念；三是教授句型，这是以前未曾触及的内容，是本学年教学的重点，也是为培养学员阅读能力而专门安排的内容。

会话——以该课课文的内容为基础，将书面语言转化为口头语言，其目的在于加深对该

课内容的理解，巩固和提高口头表达能力。

练习——练习自然是为帮助学员复习、巩固所学内容而编写的，有配合词汇的，有配合语法的，而更多的是训练学员语言技能、培养学员阅读能力的。

阅读——这是提供给学员的训练阅读能力的语言材料，全书共有阅读文章十三篇约18,600字。阅读文章在文体、内容、语法、词汇上与各课课文有一定联系。对尚未学过的生词，可能引起困惑的语言现象，加了适当的注释。

本书书末附有课文、画面解说、会话及阅读等的参考译文，练习参考答案和总词汇表，可供查阅。

本教材的授课总时数为160学时左右，其中一半用于电视、广播教学，一半用于面授。

本书的课文及阅读文章，除少数是编者撰写的外，多是选自日文原版书刊。出自教学的需要，选用文章时多作了删节，还有少数地方在用词、表记等方面作了改动，为此，现将这些书(刊)名列于书末，借此仅向原作(译)者、原出版者表示衷心的感谢。

本书由刘长义副教授、顾明耀教授主编，参加编写的还有徐祖琼副教授、陈俊森讲师。全书的统稿工作，由刘长义承担。书稿完成后由高等教育出版社尹学义副编审审阅。

本书编写过程中还得到日本国立国语研究所水谷修先生、昭和女子大学山田泉先生，以及竹中憲一、小林悦夫等先生的支持和帮助，对此，我们谨致谢忱。

编写兼顾电视、广播、面授的教材，我们是第一次，如何通过音像教学培养学员的阅读能力，更是处于摸索阶段。我们自知本书存在不少错误、不当之处，我们殷切地盼望着读者的批评、指正。

编 者

1990. 3.

目 录

第一課	(1)
课文 ハイキング	(1)
画面解说	(2)
单词	(3)
注释	(5)
语法	(7)
1. 表示授受的动词	(7)
2. 表示授受关系的补助动词	(8)
3. 口语与书面语	(8)
4. 助词 より、か、だって	(10)
5. 构词知识	(10)
会话	(11)
练习	(11)
第二課	(15)
课文 工場見学	(15)
画面解说	(16)
单词	(17)
注释	(20)
语法	(22)
1. 敬体和简体	(22)
2. 尊敬语和谦逊语	(22)
3. 比喻助动词 ようだ	(24)
4. 助词 の、も、か	(24)
5. 构词知识	(26)
会话	(27)
练习	(27)
第三課	(31)
课文 生物生存の三要素	(31)
画面解说	(32)
单词	(32)
注释	(33)
语法	(35)
1. 助词的功能与分类	(35)
2. 助词的学习及运用	(37)

3. 提示助词 でさえ	(39)
4. 构词知识	(39)
会话	(39)
练习	(40)
阅读 空気と生物	(42)
第四課	(47)
课文 飲み水が足りない	(47)
画面解说	(48)
单词	(49)
注释	(51)
语法	(52)
1. 助动词的功能及分类	(52)
2. 形容词型助动词、形容动词型助动词例析	(53)
3. 特殊变化型助动词、词形不变型助动词例析	(55)
4. 构词知识	(56)
会话	(57)
练习	(57)
阅读 地球は水の惑星	(60)
第五課	(64)
课文 揺れるランプ	(64)
画面解说	(65)
单词	(65)
注释	(67)
语法	(69)
1. 时	(69)
2. 过去完了助动词た的语法意义	(71)
3. 补助动词	(72)
4. 构词知识	(73)
会话	(74)
练习	(74)
阅读 小学校も出ていない偉大な発明者	(77)
第六課	(83)
课文 通信衛星	(83)
画面解说	(84)
单词	(85)
注释	(87)
语法	(89)
1. 动词的体	(89)
2. ていく和てくる	(90)

3. 格助词 に	(91)
4. 构词知识	(93)
会话	(94)
练习	(94)
阅读 人工衛星の利用	(97)
第七課	(102)
课文 こうもりと超音波	(102)
画面解説	(103)
单词	(103)
注释	(105)
语法	(107)
1. 动词的被动态和被动句	(107)
2. 动词的可能态和可能句	(109)
3. 动词的使动态和使动句	(110)
4. 传闻助动词 そうだ	(111)
5. 构词知识	(112)
会话	(112)
练习	(113)
阅读 動物の能力	(116)
第八課	(120)
课文 自然を守る	(120)
画面解説	(121)
单词	(121)
注释	(122)
语法	(125)
1. 客观事实的描写和作者观点的表述	(125)
2. 分析句子的两个角度	(126)
3. 形式名词	(127)
4. 构词知识	(128)
会话	(129)
练习	(129)
阅读 かけがえのない地球	(132)
第九課	(136)
课文 温度と熱の関係	(136)
画面解説	(138)
单词	(139)
注释	(140)
语法	(142)
1. 谓语、主语、宾语、补语	(142)

2. 定语和状语	(145)
3. 其它句子成分	(147)
4. 补助动词 おく	(147)
会话	(148)
练习	(148)
阅读 温度と物質の状態	(151)
第十課	(156)
课文 リンゴはなぜ落ちるか	(156)
画面解说	(158)
单词	(158)
注释	(159)
语法	(161)
1. 陈述方式主要表现在句末谓语上	(161)
2. 提示助词与谓语呼应起来表示陈述方式	(163)
3. 陈述副词与谓语呼应起来表示陈述方式	(164)
4. 构词知识	(165)
会话	(165)
练习	(166)
阅读 魚は水を飲んでいるか	(168)
第十一課	(173)
课文 わたしたちの暮しと気象	(173)
画面解说	(175)
单词	(175)
注释	(177)
语法	(178)
1. 句子的分类	(178)
2. 并列句	(180)
3. 包孕句(一)	(182)
会话	(185)
练习	(186)
阅读 天気のことわざ	(189)
第十二課	(193)
课文 力の釣り合い	(193)
画面解说	(195)
单词	(196)
注释	(197)
语法	(198)
1. 包孕句(二)	(198)
2. 找出定语, 捕捉句子的主干	(199)

3. 多项定语の层次	(200)
4. 持续体“…ている”の否定形式	(202)
5. 接续助词 のに	(202)
6. 构词知识	(203)
会话	(203)
练习	(204)
阅读 作用と反作用	(207)
第十三課	(211)
课文 スポーツとメカニズム	(211)
画面解说	(212)
单词	(213)
注释	(214)
语法	(216)
1. 包孕句(三)	(216)
2. 主从句	(217)
3. 找出状语, 捕捉句子主干	(219)
4. 提示助词こそ	(220)
5. 构词知识	(220)
会话	(221)
练习	(221)
阅读 座標を移動する	(224)
第十四課	(228)
课文 整理とは	(228)
画面解说	(229)
单词	(230)
注释	(231)
语法	(233)
1. 多层次复合句	(233)
2. 找出并列结构, 捕捉句子的主干	(234)
3. 并列结构的识别	(235)
4. “トタル型”形容词词	(237)
5. 格助词的重叠使用	(238)
6. 构词知识	(238)
会话	(239)
练习	(239)
阅读 人間の味方になった微生物	(242)
第十五課	(246)
课文 優位性を保つ	(246)
画面解说	(248)

单词	(248)
注释	(251)
语法	(253)
1. 句群	(253)
2. 指示词的几种用法	(256)
3. 并列助词 とか	(257)
4. 构词知识	(257)
会话	(258)
练习	(258)
阅读 海洋開発	(262)
附录	(266)
附录一 参考译文	(266)
附录二 练习参考答案	(302)
附录三 总词汇表	(320)
书目举要	(333)

第一課



课文

ハイキング

林玉蓮さんはあしたクラスメート四、五人と一緒にハイキングに行くことになった。大学に入学してから初めてのハイキングなので、ちょっと興奮して支度に取りかかっている。

伊藤妙子さんは林さんより一年先輩であるが、同じアパートに住んでいるので、いつの間にか親しくなった。伊藤さんは大変世話好きで、よく林さんにアドバイスしたり、めんどろを見たりしている。林さんも伊藤さんを信頼している。

この日も林さんの部屋で、伊藤さんは雪子さんが貸してくれたリュックは大きいから、手ごろな大きさを貸してあげると林さんに約束した。そしておじ

いさんに頂いた新しい靴はハイキングには履いて行かないほうがいいと林さんにアドバイスした。また、ハイキングは新しい靴下がいいと言って、新しい靴下を林さんにプレゼントした。

画面解説

伊藤：林さん、ハイキングの出発はいつ。’

林：あしたの朝9時なの。

伊藤：いいわね。ところで、用意はもうできたの。

林：ええ、大体できたわ。

伊藤：持っていくリュックはそれ。(隅に置いてあるリュックに目を向ける)

林：そうよ。何か…。(ちょっと不審な顔をする)

伊藤：(リュックに近づいて)これ、ちょっと大きすぎやしない。…もうすこし小さいのを持ってたんじゃない。

林：ええ、持っていたわ。でも、妹もハイキングに行くと言うから、先週貸しちゃったの。

伊藤：そう、じゃ、これはだれに貸してもらったの。

林：角川さんが貸してくれたの。

伊藤：角川さん。ああ、雪子さんね。雪ちゃんは体が大きいからきっとリュックも大きいんだわ。わたし、手ごろな大きさのリュックを二つ持っているから、一つ貸してあげる。

林：そう、助かるわ。大学に入って初めてのハイキングなの。

伊藤：そうだったわね。リュックとか、靴なんかはきちんと用意して行かないと、疲れるわよ。

林：そうね。靴ならいいのを一足持っているのよ。これなら大丈夫よ。(箱を見せる)

伊藤：いやに自信があるのね。

林：ええ、自慢するわけじゃないけど…、ほら。(新しいハイキング用の靴を箱の中から取り出し、伊藤さんに見せる)

伊藤：あら、新品じゃないの。

林：そうよ。おととい頂いたばかりなのよ。

伊藤：(にこにこしながら)彼がくれたの。

林：違うわよ。おじいさんがくれたのよ。

伊藤：いいわね。いいおじいさんがいらっしゃって。うらやましいわ。

林：伊藤さんだっておじいさんがいらっしゃるじゃないの。

伊藤：ええ、でも何も買ってくれないのよ。

- 林：うそ。この間だって和菓子をとくさん下さったじゃないの。
- 伊藤：ああ、あれはおじいさんからじゃなくて、おばあさんからのプレゼントよ。宅配便でいろんな物を届けてくれるのはおばあさんだけよ。
- 林：いいわね。
- 伊藤：そうそう（何かを思い出したように…）、せっかくなんだけど、新しい靴は履いて行かないほうがいいわよ。
- 林：どうして。
- 伊藤：先輩が教えてくれたんだけど、ハイキングには古い靴のほうがいいんだって。そのかわり、靴下は新しいのがいいのよ。
- 林：どうしてかしら。
- 伊藤：新しい靴はまめができてやすいんだって、…はい、これ上げるわ。（新しい靴下を林さんに差し出す）これをはいていらっしやい。
- 林：ありがとう。…ちょっと残念だけど、そうするわ。

单词

ハイキング①	[名・自サ]	郊游, 徒步, 旅行
大学(だいがく)⑥	[名]	大学
興奮(こうふん)⑥	[名・自サ]	兴奋, 激动
支度(したく)⑥	[名・自サ]	准备, 预备
取りかかる(とりかかる)⑥④	[自五]	开始, 动手
伊藤妙子(いとうたえこ)④	[人名]	伊藤妙子
先輩(せんぱい)⑥	[名]	前辈; (学历、知识、经验的) 前辈
いつの間にか(いつのまにか)⑤④	[副]	不知不觉, 不知何时
親しい(したしい)③	[形]	亲密的, 亲近的
世話好き(せわずき)⑥④	[名・形动]	爱帮助人, 好管闲事
アドバイス①③	[名・他サ]	劝告; 建议
信頼(しんらい)⑥	[名・他サ]	信赖
雪子(ゆきこ)①	[人名]	雪子
リュック①	[名]	(是リュックサック④的略语) 旅行背包
手ごろ(てごろ)⑥	[名・形动]	正合手; 合适
おじいさん②	[名]	祖父, 爷爷; 外祖父
履く(はく)⑥	[他五]	穿(鞋、木屐), 表示穿袜子、裤子等时不写汉字